

## 令和3年度卒業式告辞

お祝いの言葉に先立ちまして、先日の地震をはじめとして、自然災害の被害を受けられた方々に心よりお見舞い申し上げます。また、世界の平和を祈念いたします。

本日、現代生活学部 275 名、人間栄養学部 140 名が卒業を迎えます。また、大学院人間生活学研究科では、修了生 6 名を送り出します。

ご卒業、そして大学院の修了、おめでとうございます。

教職員一同、皆様の門出を祝福いたします。

ご家族の皆様、ご来賓の皆様をこの会場にお迎えできなかったことは大変残念ですが、皆様の門出を遠くから喜んでくださっている保護者の皆様、ご家族・ご親族の皆様もお喜びのことと存じます。心より、お祝いを申し上げます。

この2年間、新型コロナウイルス感染症の流行により、私たちの生活は大きな制約を受けました。それまでと大きく異なる状況での、この2年間を含む、学部4年間、あるいは大学院2年間の学びを修めて、大学の卒業、あるいは大学院の修了という節目を迎えられた皆様に、心より「おめでとう！」とお伝えしたいと思います。

私は、本学の教員一人一人と対話を重ねて参りました。これまでに、66 名の方と個別にお話をしました。まずは、「本学の良いところは？」という質問からスタートしました。

8割ぐらいの方の回答が共通していました。学生さんが優しくて穏やか、そして思いやりがある、ということです。素直に助言を受け入れてくれる、という声もありました。「素直に受け入れる」という点に、私は大きな可能性を感じます。素直に受け入れるところから、すべて始まるのです。そして、自分でやってみて、進めて行くうちに疑問が生じます。そして、その疑問に向き合うことがまた新しいスタートとなります。その繰り返しが、成長につながるのです。

学外実習を始め、体験からも、多くの学びがあったことでしょう。

これからは、卒業生それぞれが、東京家政学院での学びを生かして、今後の人生を「自分らしく」生きて欲しい。それが、本学教職員、皆の願いです。

皆さんが羽を休めたい時には、いつでも戻っていらしてください。そして、嬉しかったこと、悲しかったこと、何でも聞かせてください。教職員一同、お待ちしております。

話題が変わりますが、私自身が子育て中に、本を通じて元気づけられていた小林カツ代さんという料理研究家がいらっしゃいました。小林さんは、素材を生かしたシンプルな料理で人気の方でした。最近、久しぶりに、小林さんの料理本を手に取りました。そこには、料理のことの他に、子育てのことや、家庭科教育のことなども書かれていました。さらに、社会的課題についても発言されていることに気がつきました。

今日は、小林カツ代さんの言葉の一部をご紹介します。タイトルは、「“平和”あつての子供たち」です。

「いただきまーす。」

「ごちそうさま！」

今日も日本は平和です。

口いっぱいにはおぼった

子供の笑顔がありました

今も世界のあちこちで

おとなが起こした戦争で

傷つき飢える子がいます

からだ中が火ぶくれで

泣き叫ぶ子がいます

あなたに子どもがあるのなら

どんなものより戦争を

忌みきらってほしいです

平和あつての食べ物ばなし

平和あつての子どもたち

平和を守るそのことが

子どもを守ることだから

本学の創設者大江スミ先生は、時事問題を学ぶことの重要性を説いていらっしゃったそうです。

最近、ロシアによるウクライナ侵攻のニュースが世界中を駆け巡っています。大雪や地震など自然災害も増えているように思います。食糧問題や貧困問題など、社会的課題は枚挙にいとまがありません。個人では、到底解決できそうもない課題も多いと思います。それでも、社会的課題について把握し、理解すること、そして一人一人がよく考えることが大切だと思います。そして、時には意見を表明していくことも必要でしょう。

家政学、すなわち生活の科学を学び、KVA精神を身につけた皆さんお一人お一人が、本学での学びを活かして、それぞれの幸せを見つけることを心から願います。

卒業を迎える皆さんは、資格を活かした職につきたい、人の役に立ちたい、社会の役に立ちたい、といった思いでいらっしゃると思います。

卒業生の皆様のご活躍を確信するとともに、社会的課題に向き合う姿勢を持つことを期待しています。

皆様の人生に幸多かれと願い、私からのお祝いの言葉としたいと思います。

改めまして、皆様、ご卒業おめでとうございます。

令和4年3月19日  
東京家政学院大学長 鷹野 景子